



全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライタス

第48号 2008.3.25

(年3回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきゃらネットワーク

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202

TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

新潟県十日町市 (第15回全国棚田サミット開催予定地) 星ヶの棚田「棚田の夜明け」 (武井 龍彦)



新潟県十日町市 儀明の棚田「桜の咲く頃」 (桜井 大士)





# 棚田地域を活性化

## せんといかん

宮崎県知事 東国原 英夫



### Message

皆様方には、日ごろから、棚田地域の保全、活性化に格別の御尽力をいたしました。大きな成果を上げておられますことに対しまして、深く感謝と敬意を表する次第であります。

宮崎県は、「日本の棚田百選」に選ばれた棚田を11ヶ所、有しております。一昨年10月には、第12回全国棚田（千枚田）サミットが本県の坂元棚田（日南市酒谷地区）で開催され、全国から多数の方に参加いただきました。また、その折りに同市の酒谷地区的児童を中心につくるコーラスグループ「シングアウトキッズ」が歌ったオリジナル曲「棚田へ行こう！」は、昨年8月栃木県茂木町で開催されたサミットから公式ソングとして採用いただいております。

近年、地理的・社会的条件が都市部に比べて不利な中山間地域では、就業や所得確保の機会に乏しく、担い手の減少や高齢化が速いテンポで進み、労働力の脆弱化や集落機能の低下による農業生産活動の停滞のみならず、農村地域そのものの存立も危惧されています。

一方で、棚田地域は、農業生産の場の停滯のみならず、農村地域そのものの存立も危惧されています。

水源かん養等の多面的な機能が評価されています。

宮崎県は、「日本の棚田百選」に選ばれた棚田を11ヶ所、有しております。一昨年10月には、第12回全国棚田（千枚田）サミットが本県の坂元棚田（日南市酒谷地区）で開催され、全国から多数の方に参加いただきました。また、その折りに同市の酒谷地区的児童を中心につくるコーラス

グループ「シングアウトキッズ」が歌ったオリジナル曲「棚田へ行こう！」は、昨年8月栃木県茂木町で開催されたサミットから公式ソングとして採用いただいております。

だけではなく、人の心に潤いとやすらぎを与える景観や、都市との交流を図るための文化資源、さらには国土保全、

皆様の思いや情熱が今後の棚田地域の保全、活性化につながっていくことを御期待申し上げます。



このため、本県では、平成20年度から中山間地域対策や山林の未植栽地の解消を3ヶ年でゼロにする等の施策を重点的に推進していくこととしています。

田舎、地方が活性化することで、日本全体の底上げが出来るのではないかと考えます。

# 鳥獣害問題を考える

全国棚田(千枚田)連絡協議会では、先の第13回全国棚田(千枚田)サミット(栃木県茂木町)において、「棚田から明日への提言」の一つに「野生鳥獣害対策」を掲げた。これは、中山間地域の共通の課題であり、協議会として行動を起こしていく大きなテーマ。そこで、今号では、2007年末に協議会会員である自治体の担当者に「鳥獣害に関するアンケート」をお願いし、状況をたずねた。これらをもとに現場からの生の声のほか、専門家やボランティアの声を紹介する。

## イノシシ

ウシ目(偶蹄目)イノシシ科。体長150cm前後。体重は大きなものは100kg以上。本州、九州、四国と西日本を中心に広く分布。雪が苦手で豪雪地帯にはいないとされてきたが、分布範囲は北上中。現に今回、新潟県十日町市からも被害報告(p7)があった。アンケートで最も被害報告が多かった野生動物。

## サル

日本で「サル」といえばニホンザル(サル目オナガザル科のこと。体長50~60cm程度。顔と尻が赤いのが特徴。下北半島から屋久島まで広く分布。東北地方のサルは「北限のサル」としてレッドリストにあがる。アンケートでは九州、中国地方のほか、本州、北は富山県黒部市から被害報告があった。

## シカ

ウシ目(偶蹄目)シカ科。日本にはニホンジカが北海道から九州まで生息。これはエゾジカ、ホンシュウジカ、キュウシュウジカ、ツシマジカ、ヤクシカなどの地域亜種に分類され、北のシカほど大型で、エゾジカは約140kg。それに対し、ヤクシカは40kg程度である。アンケートでは、イノシシに次いで被害報告が多かった。

## クマ

食肉目クマ科。本州以南にツキノワグマ、北海道には大型のヒグマが生息。ツキノワグマは体長150cmほど。大きいもので体重150kg。九州では絶滅したと考えられており、四国も危機的状況。アンケートでは島根、鳥取、栃木、富山、新潟から報告。

## アナグマ

食肉目イタチ科。タヌキに似ているが、顔に白と黒のはっきりとしたタテの帯がある。ツメを使って森林に深い穴を掘って住む。本州と九州に生息するが、今回のアンケートでは佐賀県有田町、佐賀県小城市から報告があった。

## ハクビシン

食肉目裂脚亜目ジャコウネコ科。「白鼻心」と書き、顔の真ん中に白い線がある。中国南東部、台湾、東南アジアなどに分布。日本では古来からのものが昭和初期に移入したものか不明。雑食性。アンケートでは千葉、栃木、愛知、富山から報告。

## アライグマ

食肉目アライグマ科。北米、中央米に分布。日本ではペットとして飼われていたものが逃げ出して野生化した。雑食性。アンケートでは、長崎県波佐見町、佐賀県有田町、和歌山県有田川町から報告があった。

## キヨン

偶蹄目シカ科。中国東部、台湾に分布。日本では、動物園で飼育されていた個体が逃げ出し、野生化。房総半島、伊豆大島に生息する。小型で肩までの高さが50cm程度。2005年、特定外来生物に指定。アンケートでは千葉県鴨川市から報告。

## ヌートリア

げっ歯目ヌートリア科。ドブネズミやビーバーにも似ている。原産地は南米。日本では軍隊用の毛皮を取るために移入したものが野生化。西日本で分布が拡大してきたが、北上中。アンケートでは、鳥取県若桜町、兵庫県多可町から報告。

## ニホンカモシカ

偶蹄目ウシ科。1955年、特別天然記念物に指定されている。中国地方では絶滅し、四国、九州地方でも危機に瀕しているが、それ以外の地域では増加中。アンケートでは、和歌山県有田川町、新潟県十日町市から報告。

## キツネ

食肉目イヌ科。日本では説話や信仰などに多く登場する身近な動物。

## タヌキ

食肉目イヌ科。森林や里山で生活する夜行性。最近は都市にも進出中。

## ノウサギ

ウサギ目ウサギ科。農耕地のほか森林・草原に生息する。

## カモ

カモ目カモ科。全国の河川や湖に生息。カルガモ、オシリモ、マガモ、コガモなど。アンケートでは栃木県内から被害報告。



## ヒヨドリ

スズメ目ヒヨドリ科。体長は27.5cm。灰色の羽毛に覆われ、頬は茶褐色。里山や公園に生息。

## キジ

キジ目キジ科。日本の国鳥である。キジは愛鳥週間や狩猟期間前に大量に放鳥されている。尾羽が長い。

## ドバト

ハト目ハト科。全国に分布。伝書鳩が野生化したものは色や模様が多様。本来の野生種であるカワラバトは尾の先端が黒く、翼に2本の黒い線。

## カワウ

ペリカン目ウ科。70年代、日本では環境悪化が原因で数が激減し保護された。その結果、近年増加したが、2007年、環境相は狩猟対象にする方針を決めた。

## サギ・アオサギ・シラサギ

コウノトリ目サギ科。サギとはサギ類の総称。アオサギの体長は90cm前後で日本に分布するサギ類の中では最大。シラサギのうちチュウサギ、カラシラサギは準絶滅危惧種。

## カラス

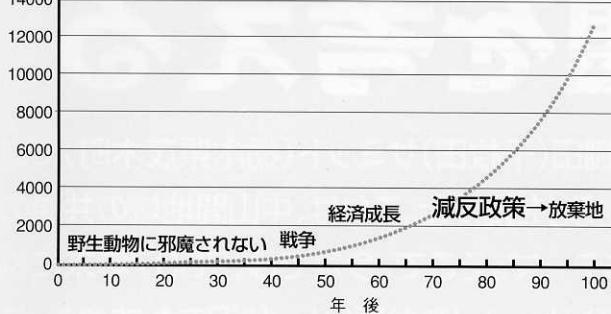
スズメ目カラス科。一般にカラスといえばハシブトガラスかハシボソガラスを指す。雑食でゴミや動物の死骸のほか、田畠の農作物を狙うゆえに農村部・都市部ともに身近な害鳥。アンケートでも最も被害報告が多かった鳥類だった。

# イノシシを知つて対策を!



近年、イノシシが増えたのは自然の成り行き。人が見逃してきただけ

イノシシが近年、急増したかのように言われます。異常繁殖しているとか、里の農作物を食べるようになつて、年2度の出産が可能になつたとか……。でも、それは大間違。歴史を少し振り返ればわかることなんです。



約100年前、明治時代ですが、日本中でイノシシやシカなどの害獣を大乱獲した時代がありました。日本は人口が増え、田畠を切り開いた開拓時代。その際、二ホンオオカミやトキも激減し、イノシシも山の奥へと追いやられました。人の力が大きかつた時代です。

**耕作放棄地の増加、農作物の放置……まるで餌付け**

はじめ野生動物が集落に顔を出すように生き残ったとします。ここに一つの増加シミュレーションがあります(図1)。これはシカやイノシシよりも繁殖率を低く想定した「1年に5%ずつ増える動物」が100年間でどのくらい増えられるかを計算したグラフです。これを見てもわかるように、20~30年は少ない時代が続きます。そして、放つておけば、その数は100年後、14000頭にもなるんです。

増えはじめてきた時期に何らかの手を打つておけば良かったんです。でも、何もしてこなかつた。100年前を1900年とすればよくわかります。増えはじめたころ、日本は太平洋戦争に突入します。続けて高度経済成長期。獣どころではなかつた。そして決定打となつたのが、70年代の減反政策。その結果、日本中に耕作放棄地が増えはじめ、人と獣が棲み分けしていた境界線がなくなつていったのです。

イノシシにとって大胆な行動ができるのは、藪がいっぱいあるところです。つまり、耕作放棄地がいっぱいあるところ。

いろいろ里に出てきているのです。です

から、耕作放棄地を刈り払つて見晴らしを良くしておこうとも大切です。

棚田を有する中山間地域の被害の多くがイノシシによるもの。イノシシの行動学を専門とし、中山間地域をはじめ、農業の現場で被害防止に役立てる研究を重ねている麻布大学講師、江口祐輔先生にお話を伺つた。

のとき、ある山にイノシシが100頭だけ生き残つたとします。ここに一つの増加シミュレーションがあります(図1)。これはシカやイノシシよりも繁殖

なつてきています。そして、集落の方はといえば、まるで野生動物を餌付けしているような有り様。例えば、収穫せずに人間が放置した果実や作物。格好の餌です。そのほか、稻刈り後の一番穂を放置していませんか? また、最初の被害を放置していませんか? 集落みんなで考えていくことで餌付けしている状態から抜け出せるはずです。

野生動物は、本来の野生の警戒心がきちんとあれば、人の領域には入つてこないものです。集落の餌付け状態を見直すとともに、その境界線をきちんとつくつてやる必要があります。イノシシは、賢いけれど、ものすごく慎重で臆病な生きものです。慣れた場所でも毎回確認します。藪から出てくるときも藪の茂みが開けたところで、まずびたつと止まる。自分の目で安全かどうか確認してから、飛び出していく。

イノシシにとって大胆な行動ができるのは、藪がいっぱいあるところです。つまり、耕作放棄地がいっぱいあるところ。

いろいろ里に出てきているのです。です

から、耕作放棄地を刈り払つて見晴らしを良くしておこうとも大切です。

捕獲頭数を増やすより、悪さをする1頭のイノシシを捕まえて

また、獵師さんを増やして捕獲頭数を増やせばいい、そう思つている人は多いでしょう。けれど、獵師の数は今後増えないと思います。いくら免許を取りやすくしても、今の若者はやろうと思わないですよ。実際、若い人がどれだけ入つてきているでしょうか。

ちなみに1970年代は、獵師の数は日本全国50万人いました。でも、この30年で20万人に減つてしまつた。しかも年を取り、高齢化している。その一方で、イノシシは増加し、獵師が年間何万頭か捕まえているので、平均年齢は下がり、若年齢化している。獵師は高齢化し、減少傾向。かたやイノシシは子どもを産む力のある若年層で増加中。どちらの勢いが増さるのでしょうか。

忘れてはならないのは、イノシシの被害を減らしたいのではなく、イノシシの被害を減らしたいんではなく、全体の頭数を減らすより、加害個体を10分の1でも捕まえたら、被害は激減します。事例からもわかります。被害がひどく、さぞか

麻布大学講師  
江口 祐 輔



忘れではないのは、イノシシの被害を減らしたいのではなく、イノシシの被害を減らしたいんではなく、全体の頭数を減らすより、加害個体を10分の1でも捕まえたら、被害は激減します。事例からもわかります。被害がひどく、さぞか

し多くのイノシシが来ているのかと思いきや、オス一頭を捕まえたところ、その後被害がなくなつたとか、親子3頭を捕まえたら、被害がおさまつたとか……。山の上のイノシシは里を知りません。数だけを追い求めた結果、山の上のイノシシを追い回し、逆にわざわざ里に来るようにならぬでいるかもしねいんです。里周辺をうろうろして被害をもたらしているのは、ほんの一例です。

捕まえたイノシシに発信器をつけて、行動範囲を調査した結果、わかつたことですが、山際の畠から上部200m以内で捕まえたイノシシの80%が悪さをしていました。しかし、200m以上上で捕まえたイノシシは80%が悪くなかった。だから、1万頭むやみやたらに捕まえるのではなく、山際で100頭捕まえるだけ充分効果があるのであります。

イノシシを知れば、  
対策は自分たちでできる

さて、農家の方ができる具体的な対策ですが、トタン柵や電気柵で田畠をきちんと囲むことが基本といえます。また、ワイヤーメッシュ（網目15cm四方の金網）の柵に折り返しをつける方法でも高い効果が得られています。これは「忍び返し」と言われたりもしますが、この折り返しを外側に向けてわずか15度程度つけるだけで、イノシシは飛び越えられなくなるのです。イノシシのジャンプは助走がなく、その場で垂直にジャンプするのですが、折り返しがついていることで、跳躍する位置がつかめずに諦めるという仕組みです。

うすると見えない上に、跳躍の位置を占めないと仕掛けが簡単にできます。また、トタン板で囲い、その外側に電気柵でもいいですね。田隠しはとても効果があります。ただ、トタンの高さも80cmあればいいのですが、市販のものは60cmと少し足りず、乳熟期の稲穂がばつちり見えてしまうのが、欠点でしょうか。

トタン柵も電気柵もどれもきちんと隙間なく張り、人の見回りなども加わって、イノシシが警戒するようになれば効果は出ますが、日常のメンテナンスを怠っては、効果は出ません。ほんの少しの隙間がイノシシに進入経路を与えてしまうのです。電気柵は、草が生えて電流がストップしては何にもなりませんし、「少しの隙間」と人が思ってもイノシシは得意の鼻先をそこに入れて、パワーショベルのごとく、ぐるぐる入ってきます。

実態を知つてほしいですね。獣害が増加した背景には耕作放棄地の存在があり、その耕作放棄地を生み出しているのが自分たちの食卓、ということも忘れてはならないでしよう。自分も原因の一つ。獣害問題は、農村部の問題だけではなく、自分とむつながっているんですよ。

わたしたちが、1日3食、米を食べて  
いれば減反政策はなかつたわけですし、

し、「ストも安い。折り返しもおばあちゃんや子どもがちょっと力を加えるだけで曲がる。便利で扱いやすい」とから、現在広く使われはじめています。

でも実は、わたしは自分で考案しながら、この方法が好きではないのです。イノシシの気持ちを考えると、イノシシは田でものを確認していますから、柵の向こうの食べ物を見つけます。そこで、柵を飛び越えようとするのですが、折り返しがついていて跳べない。おじいちゃんのを見せるだけ見せて、近づけないなんて、イノシシの立場に立つと酷じやありませんか。

だから、まばたクタンで見えなくし、  
その外側にネットを外に広がるように斜  
めに張る方法もおすすめしています。こ



イノシシの顔は流線型。猪突猛進という言葉とは裏腹に、実際に慎重で観察力に長けている。20cmの幅をくぐりもするし、2mの高さを跳んだりもできる



右：こんな耕作放棄地が危ない。イノシシが里に向かうベースキャンプとなる

左：ワイヤーメッシュとイノシシ。イノシシは折り返しがついていることで跳躍の場所が判断できず、跳ぶことができなくなる

です。また、人が都市に流れず、中止間地域にたくさん暮らせば、こうした問題はなかったのですから、みんなで考えていくべき問題だと思いますね。

安い中国産に流れなければ、未収穫の夕ケノコがイノシシの餌となることもなかつた。そして、イノシシが身を隠すのに絶好な竹林も広がることはなかったんです。また、人が都市に流れず、中山間

# 現場からのレポート

鳥獣害被害に頭を痛めている現場から被害の実情や対策のレポートが届いた。和歌山県有田川町、千葉県鴨川市、新潟県十日町市、鳥取県若桜町からは、自治体の鳥獣害問題の担当者が報告。そして、鳥取県の「学生人材バンク」からは、学生たちがイノシシ柵を設置するボランティア活動をフォトレポートしてもらつた。

## 和歌山県有田川町

和歌山県有田川町産業課課長 前 守

### 町内全域で鳥獣害の被害は多大

有田川町の面積は351・77km<sup>2</sup>と和歌山県下で一番大きな面積を有する町であり、その大半（約76・4%）が山林であり、鳥獣害の被害は多大であります。本町の下流域は有田ミカンの産地であり、毎年9月から12月末まではヒヨドリ・イノシシ・サル・アライグマによるミカン等の食い荒しの被害に頭を痛めています。また、中上流域は普通畑の作物・水稻等にシカ・イノシシ・サル・アライグマの被害が甚大であり、山林においてもニホンカモシカ・シカによる立木の食害等が森林荒廃に拍車をかけています。

現在、町で行つてしる対策としては、①被害地域に関係者によつて防護柵・捕獲柵の設置。②狩猟期間以外は獵友会会員による銃器での有害駆除の2点が中心です。

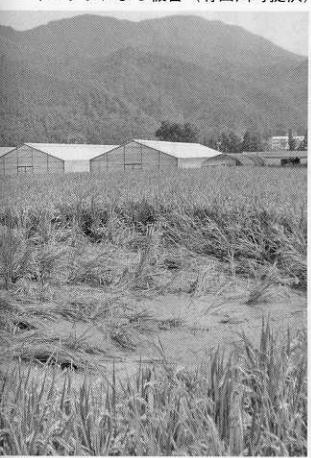
当地域においては過疎化・高齢化の進行が非常に進み、後継者不足は非常に深刻な状況となつていています。このため、耕作放棄田畑が各地区に点在し、野生鳥獣の住み家となつていることが被害拡大の要因になつていています。また、野生鳥獣の個体数の増加と植林（杉・檜）、林地開発等による餌場の激減が被害を増やしているものと考えられます。

このような状況から根本的な解決策が見あたらない状況ですが、保護鳥獣（二ホンカモシカ・サル・カワウ・アオサギ等）の規制緩和及び狩猟期間の延長をお願いしたいと考える次第です。

### 保護鳥獣の規制緩和を！



イノシシによる被害（有田川町提供）



## 千葉県鴨川市

千葉県鴨川市農林水産課 長幡 祐自

### 作物だけでなく、農道や林道の崩壊も

鴨川市の鳥獣被害は、その8割以上が

水稻であり、その他は野菜や果樹といった状況です。動物の種類では、イノシシによる被害が特に急増しており、イノシシ以外では、サルやシカもありますが、外来種のキヨン（シカ科）やハクビシンといった小型獣も少しづつ増加しています。

農作物の被害金額は20000万円を超えており、耕作放棄地の増加の原因にもなっています。また、最近では、農作物の被害だけではなく、農道や林道の崩壊、さらには交通事故など住民生活をも脅かしている状況です。

### 電気柵を設置しての対策で効果

心として2500頭あまりを捕獲しました。農家に対しても、わな免許取得を奨励し、自分たちの地域は自分たちで守るよう指導しています。

また、イノシシの特性を考慮し、畜産からは牛の放牧事業、林業からは森林ボランティアによる荒れた山林の管理等を行っています。今後も、他の事業を組み合わせた多角的な有害鳥獣対策を実施していきます。

### 市町村単位の対策では限界がある

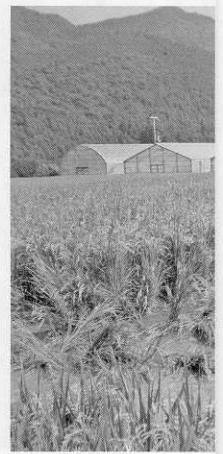
鳥獣被害は農産物だけではなく道路の崩壊など二次的被害もあり、またその対策費用も多くかかっています。地元行政だけ対応するには限界もあるため、国や県も抜本的な対策を講じていただきたいところです。特に市町村の負担はとても大きく、国や県には補助金等の必要性を感じています。また、国などの関係機関には科学的な見地から個体数を減らす研究などを進めていただきたいとも思います。

さらに、当市でも外来種であるキヨンが増えているとおり、日本古来の生態までも壊されている状況です。繁殖力の強い外来種に対しては厳しい取り締まりが必要ではないかと考えています。

防止対策の一環としては、県の補助事業を活用し電気柵の設置を中心に行つています。また、設置に関してはより効果的に行えるよう、個人よりも集落全体による防止対策への取り組みを推進しています。山沿いに5km以上にもなる電気柵を設置し大きな効果をあげています。

一方、地元獵友会により直接捕獲も実施しており、平成18年度はイノシシを中

# 新潟県十日町市



本来生息していなかつた  
大型鳥獸が出没

十日町市は新潟県の南部に位置し、平年でも積雪が3mに達する豪雪地帯です。

いま問題になっているのは、本来生息していなかつた大型鳥獸が出没するようになつたことで、カモシカやクマは約20年前から、イノシシやカワウは最近出没するようになりました。

カモシカ・クマ・イノシシは長野方面から、カワウは信濃川に沿つて下流域から來たと思われますが、はつきりした経路はわかりません。

十日町市で有害鳥獸といふと、稻や野菜を荒らすカラス・ドバト・タヌキ、木の芽や皮を食べてしまう野ウサギが一般的で、これらの有害鳥獸は時期を決めて地元の猟友会から駆除してもらつています。

カモシカは国の天然記念物であり、山奥にいるのであまり目撃情報は寄せられません。クマは冬眠明けの春と、冬眠前の晩秋に目撃情報が集中しますが、人家近くでないかぎり捕獲しないことにしています。イノシシについては、被害があつた畠

新潟県十日町市農林課 佐藤 仁

やその周辺にワナを仕掛けたり、猟友会から出動してもらつて捕獲するようにしていますが、なかなか捕獲できないのが現状です。

カワウは十日町市でも営巣するようになり、川魚の減少やニシキゴイが食べられるなどの被害が発生したこと、および昨年秋の法改正により捕獲できるようになります。

## 荒れた山林、耕作放棄地が 絶好の隠れ家に

なぜ、人里近くまで来るようになったのか原因は不明ですが、一つ考えられるのは本来の生息域である山林の荒廃や、耕作放棄田畠の増加だと思われます。

現在、人家近くの山林でさえ手入れがされず、耕作放棄された田畠にはスキや雑木が繁茂しており、大型鳥獸が隠れるには絶好の場所となつています。

木材価格の低迷による森林整備の停滞、減反政策と過疎・高齢化による田畠の耕作放棄など、中山間地域をとりまく情勢は依然として厳しいものがあります。

大型鳥獸等の出没は今後ますます増えると思われますが、捕獲以外に有効な手段はないのでしょうか。

## アンケートから第1弾

p3でも紹介したが、2007年末、自治体会員および関係市町村の担当者へ「鳥獸害問題に関するアンケート」をお願いし、自由記述で回答してもらった。ここから、「アンケートから第1弾」では、鳥獸害問題への対策をピックアップして紹介する。

### 対策

- 防護柵（電気柵、トタン・網、ワイヤーメッシュ等）や防除・防鳥ネットの設置及び補助（宮崎県日之影町、長崎県長崎市、佐賀県有田町・小城市、福岡県うきは市、島根県浜田市、島取県若桜町、和歌山県有田川町、愛知県新城市、長野県千曲市、千葉県鴨川市、栃木県大田原市・西方町・那珂川町・那須烏山市、富山県黒部市、石川県輪島市、新潟県佐渡市）
- 農地を含む集落全域を取り囲む柵の設置（長崎県長崎市・波佐見町、兵庫県多可町、千葉県鴨川市）
- 中山間地域直接支払対象農地では、集団的に防護を行うよう指導（佐賀県有田町）
- 捕獲檻の設置補助（愛知県新城市）
- 獵友会（有害鳥獸捕獲隊／捕獲班）による捕獲（銃器、箱わな、くくりわな）及び補助（長崎県長崎市・波佐見町、佐賀県唐津市・有田町、福岡県うきは市、島根県浜田市、島取県若桜町、兵庫県多可町、和歌山県有田川町、愛知県新城市、長野県千曲市、千葉県鴨川市、栃木県矢板市・大田原市・西方町・塙谷町・那珂川町・那須烏山市、富山県水見市・石川県輪島市、新潟県十日町市・上越市）
- 農家のわな免許取得奨励（千葉県鴨川市）
- ロケット花火・爆竹の配布（富山県黒部市）
- パチンコの貸し出し（富山県黒部市）
- 有害鳥獸捕獲隊によるバトロール（富山県黒部市）
- 爆音器の設置（宮崎県日之影町）
- イノシシ対策で牛の放牧（千葉県鴨川市）
- 森林ボランティアによる山林の管理（千葉県鴨川市）
- 「有害鳥獸対策協議会」（市、県、獵友会、JAなど）を立ち上げ、被害相談等に対応（長崎県長崎市）
- 「有害鳥獸対策協議会」を設置し、地区の代表者に行政の取り組みや被害防除方法を伝え、集落単位で面的な対策に努めるよう呼びかける（富山県黒部市）
- モデル地区により集落全体での対策を検討（愛知県新城市）
- クマよけのための鉛を配布。児童携帯用（島取県若桜町）
- 里山整備による人と野生動物との棲み分け（富山県黒部市）

### アンケート回答があった26自治体

宮崎県日之影町、長崎県波佐見町、長崎県長崎市、佐賀県唐津市、佐賀県有田町、佐賀県小城市、福岡県うきは市、島根県浜田市、島取県若桜町、兵庫県多可町、和歌山県有田川町、愛知県新城市、長野県千曲市、千葉県鴨川市、栃木県大田原市、栃木県矢板市、栃木県西方町、栃木県塙谷町、栃木県那珂川町、栃木県那須烏山市、富山県水見市、富山県黒部市、石川県輪島市、新潟県上越市、新潟県十日町市、新潟県佐渡市

# イノシシ柵を設置する

## 学生ボランティア

鳥取県農山村ボランティア事務局 学生人材バンク 田中 玄洋

鳥取県内では、農山村ボランティア事務局の運営を鳥取大学生が設立したNPO「学生人材バンク」が受託しています。携帯メールでの募集に答えてくれた学生が集います。地域の人との接点を求めて、鳥獣被害の現場を学ぶため、おいしい地元のご飯を食べるため。目的は様々ですが、地域にとって助かる存在であることに変わりはありません。

### イノシシ柵の種類

集落によって、イノシシ柵の種類

△電気柵の場合△

が違います。鉄の柵はしっかりと設置が楽ですが、漏電しないよう草刈りを定期的に行う必要があり、毎年、設置と撤去があります。鉄の柵は設置作業が大変ですが、長持ちします。

△鉄柵の場合△



# 鳥取県若桜町

鳥取県若桜町 農林建設課 課長補佐 坂口 光洋

### 農家の減少、高齢化が進むなか、被害が拡大

若桜町は鳥取県の東南端に位置し、総面積は $199.31\text{ km}^2$ を有していますが、その95%は森林原野で占められた人口4000人余りの町です。

国定公園氷ノ山をはじめとする1000mを越える山々に囲まれた農地は、谷間の200~700mに点在し、1戸当たりの経営規模は64aと少ないものになっています。

農家の多くは兼業で、特に農家人口の減少と農業従事者の高齢化は著しく、耕作放棄地は拡大の一途をたどっています。加えて有害鳥獣による農作物等への被害が拡大しており、被害の受けやすい林地に接した棚田などの耕作放棄に拍車をかけているのが現状です。

### ヌートリアやアライグマなど の外来種も

本町の有害鳥獣の種類はクマ、イノシシ、シカ、サル、タヌキ、トリなど多種に及び、新たにヌートリアやアライグマなどの外来種の出現に危機感を募らせてています。農作物への被害としてはイノシシが最も多く、近年はシカによる被害が増加しています。また、クマやサルによる人的被害も危惧しております、これらの対策に苦慮しています。

### 具体的な対策

・イノシシ等の侵入防止として、金網防護柵を約21km整備(販売事業)。

・侵入防止施設購入費(電柵、ネット、トタン等)の助成

・個体数の調整対策(捕獲許可、猟友会への捕獲委託、カラス一斉捕獲等)

・サルの被害防止対策(威嚇のための電動銃を自治会へ貸出)

・クマ、イノシシ、シカ、サル等の被害対策講習会の実施

・クマよけ鈴の配布・販売(児童への配布、町民への購入助成)

・猟友会、狩猟講習会への支援など

	16年度	17年度	18年度
イノシシ	8	8	12
シカ	26	43	31

獵期以外の許可によるイノシシとシカの捕獲頭数

農地の近くでクマを捕獲(若桜町提供)

## イノシシ柵の設置方法へ鉄柵の場合▽

### ①設置箇所までフェンスと支柱を運ぶ



②このときフェンスの縦線がイノシシ側（この場合山側）に向くようにします（横線がイノシシ側だと、引っ張って壊されてしまうそうです）。



### ②フェンスを並べる



### ③支柱を打つてフェンスをあわせる

### ④フェンスと支柱を針金で固定する



イノシシ柵の設置方法を「じのしつし団」の皆さんと一緒に教えてもらいました。鳥取県には鳥獣対策専門の職員の方がいるので、その方が先生です。

## 有害と動物保護の狭間で 打開策を模索

町では県などの支援を受けながら右記の様々な対策を講じてきてきましたが、被害は拡大傾向にあり、行政として有害と動物保護の狭間にあって、その打開策を模索しています。

また、鳥獣被害対策に係る年間経費は約400万円にも上り、町財政を圧迫しており、財政支援の拡充も切望しています。このような状況の中、住民の手によって、捕獲した有害獣を活用した鹿カレー、猪カレー、燻製など商品化に向けた取り組みも始まっています。

## 地域との交流も楽しみ

作業終了後、もしくは昼休憩には地元の食材を振舞つてもらうことが多いです。山菜料理や、イノシシ肉や鹿肉の料理など大学生では確実にお目にかかるない

ものばかりです。しかも非常に美味しいお土産までもらったり帰ったりすることもあります。



## 学生が継続する理由

学生が参加する理由に、地域の人の温かさがあります。「田舎のおばあちゃん」と話しているみたいや」「集落の一員になつたようだ」など、継続は人と人の出会いにつきると思います。



写真：学生人材バンク



民家付近にサルが出没（若桜町提供）

# 現場へ

## 栃木県茂木町

日本全国、鳥獣被害が年々増えていた。どの地域もその対策に頭を悩ませる中、栃木県茂木町では、平成19年度に茨城県と栃木県の県境をまたがる12市町で「茨城・栃木県境地域鳥獣害防止広域対策協議会」を発足させ、広域的に積極的な対策に取り組みはじめた。現場から生の声をレポートする。

### 被害も捕獲頭数も倍、倍と増加

栃木県茂木町は県の南東部に位置し、茨城県と隣接した中山間地域である。標高約200～300mといった山々が町全体に連なっている。人口は約1万600人。経営耕作面積を見ると、田74ha、畑411ha、樹園地20ha。そして耕作放棄地は481ha（2005年農業センサス）と畑の面積よりも広くなっているのが現状だ。

イノシシは、以前から町の一部の地域に生息していたというが、最近は町全域に被害が拡大している。また、3年ほど前からは、新たにハクビシンの被害も出はじめたという。町の鳥獣害対策の担当者、農林課の河又宗明さんは言つ。「イノシシは近年、被害も捕獲頭数も倍、倍と増えています。平成14年の有害鳥獣捕獲頭数は3頭でしたが、それが平成16年には29頭。そして平成18年には80頭まで増えています。

私は、イノシシ被害が増えた1番の理由は、イノシシの最大の天敵である人間が山に入らないことだと考えています。これは、イノシシと人間の縄張り争いと思つてください。昔は人間が山の奥まで入り、木を切つたり、落ち葉を取つたりと人間の縄張りを増やしていく、争いを

好まないイノシシは、さうに山奥へと逃げて行ったのです。

しかし、最近は人間が山に入らなくなったり、山は荒れ放題。イノシシがいても見えないほど下草が伸び、山林近くの耕作放棄地に巣を構えるまで、縄張りが広がっています」

### イノシシが荒らした現場で

伺ったときは冬。ちょうど作物があまりないため、田んぼにいるミニズを求めて、あぜを壊している被害が多かった。田んぼの被害は夏の終わりが多いといふ。

イネの乳熟期、稲穂の白い汁を吸いに来て、大丈夫だとわかるとなるまで何度も来るんです。餌を探しにあちこち歩き回らなくてすみますからね。しかも、「イノシシは、餌（農作物等）を食べに来て、大丈夫だとわかるとなるまで何度も来るんです。餌を探しにあちこち歩き回らなくてすみますからね。しかも、



夏にイノシシ被害にあって、そのまま放置されてしまった田んぼ

冬の田んぼについたイノシシの足跡。捕獲頭数が年々増えた結果、昔は100～150kgのイノシシもいたが、ここ数年はだいたい60kg程度という。生まれて2～3年とか



一緒に町内を案内してくれた同農林課の伊藤崇さんが話した。

鳥獣害問題は、被害にあつことでもある。やる気をそいでしまうこともあります。農家の高齢化、一方で米価の下落が進むなか、農家がやる気を失わいためにも個人まかせにするのではなく、集落はもうろんのこと、みんなで対策に取り組んでいくことが求められている。



取材・写真：石井里津子

## 町の随所で見られた電気柵

町では対策として、捕獲のほか、電気柵で田畠を囲う方法を取っている。トタン板や鉄網柵は重く、設置がたいへんよねえ、電気柵が主である。

「イノシシの体は、剛毛で覆われているため、有刺鉄線や電気柵の電気も平気です。ですから、感電させるためには、鼻先を狙うしかありません。この鼻先をいかに柵線に触れさせるように電気柵を設置するかが、大切なポイントです。

電気柵は、通常20cmと40cmの高さに2段に設置します。これはイノシシの鼻先でものを確かめる習性を利用したもので

電気柵は、まとまった団地ごとに広い範囲で囲ってあった。電気柵の電圧は高く、約9000Vもあるというが、一定の間隔で瞬間に流れているため安全である。本器1台で約1500mの電気柵がカバーできる



ソーラーシステムのバッテリー。1年間バッテリー交換不要で5年間使用可能。しかし、ソーラーシステムが4万円、バッテリーが4万円、計8万円と高め。だから盗む人も最近はいるらしく、人の手が届かない高い位置についている農家もあった（下写真）。上写真人物、農林課、河又さん

漏電するためメンテナンスが必要ですが、きちんと張り巡らし、下草刈りをやればほぼ100%防御できます。

以前は個人で電気柵を張っていましたが、今では集落全体で取り組むようになりました。また、下草刈りは中山間地域等直接支払制度の協議会で管理するケースも出てきています

電気柵は、国の補助事業「元気な地域づくり交付金」を利用して、70%補助（国50%、県20%）、残りの30%を集落で負担している。平成18～20年度の3年計画で、総事業費約4300万円、総延長約190km、総面積約283haとなる見込みだ。

農家のなかには、「3段に張らないとジャンプされる」と言う人もいますが、イノシシがジャンプするのは、大に変わったときなど特別なときしかありません。下の柵線を張る位置が高すぎて、鼻先に触れずに、体で柵線を押し上げて潜り込まれる場合が多いのです。

そして電気柵は、下草刈りをしないと漏電するためメンテナンスが必要ですが、きちんと張り巡らし、下草刈りをやればほぼ100%防御できます。

以前は個人で電気柵を張っていましたが、今では集落全体で取り組むようになりました。また、下草刈りは中山間地域等直接支払制度の協議会で管理するケースも出てきています

電気柵は、国の補助事業「元気な地域づくり交付金」を利用して、70%補助（国50%、県20%）、残りの30%を集落で負担している。平成18～20年度の3年計画で、総事業費約4300万円、総延長約190km、総面積約283haとなる見込みだ。

## 農家と出会う

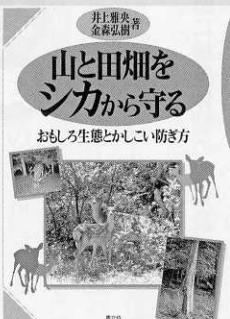
す。イノシシは、鼻を地面すれすれにこすり付けるように歩いて来ますので、下の柵線を張る位置は、低い方が効果的です。

農家のなかには、「3段に張らないとジャンプされる」と言つ人もいますが、

「イノシシは茨城から来るね。この田んぼは中山間地域等直接支払制度をきっかけに菖蒲を植えたんだよ。景観作物としてね。人にやるのが楽しみですね。だのに、イノシシに入られて。イノシシがこの集落に出るようになったのは最近だ。

「イノシシから田畠を守る」おもしろ生態とかしこい防ぎ方

## 獣害問題を考える際、必読しておきたい3冊

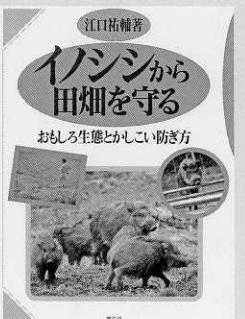


井上雅央・金森弘樹著 農文協刊  
2006年発行の同シリーズ。冬場のシカの餌となる「緑草帯」をわれわれ人間が作っていた！驚きの現実とその対策。



山の田畠をシカから守る  
～おもしろ生態とかしこい防ぎ方～

井上雅央著 農文協刊  
イノシシよりも先に出版された同シリーズ。具体的かつ詳細な対策方法に読んだ人はみんな勇気をもらえるはず。



山の畠をサルから守る  
～おもしろ生態とかしこい防ぎ方～

江口祐輔著 農文協刊  
今号のライステラスp4～5でも登場した江口先生の本。現場をつぶさに見てきた著者だけに、農家の味方になる一冊。

## 広域で対策協議会を発足させて

平成19年2月、茂木町では近隣の市町とともに「茨城栃木県境地域鳥獣害防止対策協議会」を発足させた。これまでには、それぞれ単独で対策を行ってきたため、「ここでイノシシを追いかけると茨城県へ逃げる。逆に、茨城県で追いかけるとこちらへやつてくる」という、近隣市町の間でいたちごっこが続いてきた。

平成18年夏、関東農政局から県をまたがった広域補助事業の話が紹介された。話は急速にまとまり、協議会立ち上げへと動いたという。「栃木と茨城にまたがっている八溝山系の中山間地の我々としては、取り組むべき事業でした」。

協議会に入っているのは12市町。栃木県は那須町、大田原市、那珂川町、那須烏山市、市貝町、益子町、茂木町。茨城県は大子町、常陸大宮市、城里町、笠間市、桜川市である。

事業として、次のようなプロジェクトを立ち上げ実施している。

①有害鳥獣捕獲プロジェクトは、12市町連携によるイノシシ一斉捕獲の実施である。

平成20年1月23日に、大田原市で第1回一斉捕獲研究会を開催し、平成20年4月に一斉捕獲を実施することを合意。一斉捕獲に向けて着々と準備を進行中。

②普及啓発プロジェクトは、農家のためにイノシシの生態をもつとわかつてもらおうと、平成20年2月22日に常陸大宮市で、協議会のアドバイザーにもいきたい。

なっている中央農業総合研究センター仲谷淳氏による「イノシシ講演会」を開催。農家約150名が参加し意気投合した。

また、現在、農家向けイノシシ対策リーフレットも作成し、全農家へ配布する予定。

③地域参加型鳥獣害マップ作成プロジェクトは、イノシシの被害場所、防護柵の設置場所、捕獲場所等を、一つのマップに重ねて表示することにより、

今後のイノシシ対策を考える上で重要な役割を果たすとして、12市町で現在、調査・作成中である。

④効果的な被害防止設置プロジェクトでは、新たな防護方法や、捕獲方法を研究して行くとして、平成19年11月13日に笠間市で、八溝山系では設置が無かった、箱ワナの講習会を開催。今後の成果が期待されている。

⑤食肉プロジェクトでは、平成20年度に那珂川町で、イノシシの食肉加工施設が建設予定で、この施設を拠点に12市町で捕獲したイノシシの安定供給、または加工品開発を進めて行く。

このほかにも協議会によって、多様かつ実用的な調査や対策が可能となってきた。

一斉捕獲研究会をはじめ、獣害問題は一刻も早く対策を打つていかなければ、それこそ高齢化していく農家の肩にますます負荷を与えるばかりであることが、現場からも見て取れた。対策の成果として、今後の「茨城栃木県境地域鳥獣害防止対策協議会」の取り組みにも注目して

## アンケートから 第2弾

### 要望（順不同）

- 国や県による抜本的な対策を期待（複数有）
- 高齢化と耕作放棄地の増加は必至ゆえ、早急に捕獲体制の整備及び、被害防止対策の充実が急務。こうした整備への予算化や人材確保をお願いしたい
- 銃器等による駆除はもちろんのこと、防護柵や防鳥網の設置等に対する予算措置など早急な対策を強く要望
- 被害対策に対する財政支援の拡充を（地元負担が大きい。国・県の補助の拡充を）
- 電気柵等施設整備にかかる助成制度の創設及び拡充
- 平成20年度に新たな鳥獣対策事業が設立されるが、市町村の事務的負担が大きいようなので、負担の軽減を図ってほしい
- 科学的な見地から個体数を減らす研究を進めていただきたい
- 外来種への厳しい取り締まりを
- 有害鳥獣捕獲隊はもつと大切にされるべき
- 中山間地域における鳥獣被害対策を要望
- 鳥獣対策の機関の一本化を望む
- 関係機関の連携を密に対策がスムーズに進められるようにならない
- 共生方法の構築が大切
- 全国的な問題ゆえ、市町村単位での駆除だけでは解決にならないため、もつと広域で具体的な対策を考えていく必要がある
- 有害と動物保護の狭間にあって対策に苦慮している。何か道はないものか
- 保護鳥獣の規制緩和及び狩猟期間の延長を
- 集落単位での取り組みを促すため、追い払い、刈り払い、見回りに対する支援が必要
- 専門知識を有したアドバイザーの紹介・派遣
- 狩猟免許取得にかかる助成
- 捕獲許可の緩和
- 農業経営を圧迫している現状では、個体数を激少させることが急務。獣友会の高齢化に伴い、狩猟免許・銃砲所持許可取得の促進、簡素化、対策が必要
- 農家が自衛する場合に限り、狩猟免許不要の特例はできないものか
- 行政の対策は完璧とはいかないまでもある程度のところまではきている。今後は農家個々の意識を高めてもらい、対策の強化に努めてもらいたい
- 今まで生息していなかつた鳥獣が出没する原因調査が要
- 広葉樹林の適切な整備をしなければ、人里への出没が続く。耕作放棄田畠への広葉樹植林を推進したほうが良い

# 新しく自治体会員が増えました

全国棚田（千枚田）連絡協議会の自治体会員は現在56市町村です。棚田の保全・利活用、また中山間地域の活性化を目指しています。新しい自治体正会員からのお便りです。

## 熊本県芦北町

芦北町は、熊本県の南部に位置し、不知火海に面しています。北側の八代市、南側の水俣市・津奈木町との境を山々に隔てられ、東側は球磨川を境とし、西側には不知火海を挟んで天草諸島があります。

東西 $16 \cdot 6$  km、南北 $25 \cdot 4$  km、総面積 $233 \cdot 71$  km<sup>2</sup>を有する本町は、東西南北を山、川、海によって区切られた一つの領域になっています。この領域には標高200～900 m前後の山々が連続しており、平地が少なく町土の約8割が山林です。

また、平地は、海岸及び河川流域に分布するのみで、その地域に農地と宅地が

点在しています。それ以外のほとんどが丘陵などが丘陵となっています。気候は

海岸地域と山間地域では幾分条件が異なります。海岸地帯は暖流の影響により暖かく、ほとんど無霜

のに対し、山間地域は降雨量、湿度共に多く、比較的冷涼なところです。

本町は、平成17年1月1日に旧芦北町、田浦町が合併し、町の基本指針となる芦北町総合計画では、自然や地域資源を活用した都市との交流を掲げています。

このような中で、1級河川球磨川に面する告地区の住民が主体となり棚田オーナー制度を実施しています。この制度は、農業体験をしたいという都市部の方に棚田を提供し、田植え、草取り、稲刈り作業を通して、告地区的棚田を守り、棚田の大切さを参加者に理解してもらう目的で、平成12年度から開始しました。

この告地区は世帯数11戸の小さな集落で、山間を縫うように石積み棚田が連なっています。春にはお茶の新芽が息吹をあげ、秋口には彼岸花が咲き誇り、黄金色に輝く稲穂と歴史を感じさせる石垣のコントラストはまさに、農村の原風景といえます。

平成19年度は15組のオーナーの方が参加し、農業体験を楽しでもらい、自分で収穫した米をおいしく味わってもらっています。この取り組みは、日本古来の農法を後世へ伝える一翼も担っています。

これから全国棚田連絡協議会の会員の皆様と共に、棚田の保全・利活用、中山間地域の活性化を考えて行きたいと思います。

佐渡市は、新潟県の北西、日本海に浮かぶ佐渡島全域を市域としています。平成16年3月1日に10市町村が合併し、佐渡市が誕生しました。人口は約7万人面積は、855・25 km<sup>2</sup>（東京23区の約1・4倍）、島1周の長さは280・4 km。市章は佐渡島の形と佐渡市の頭文字「S」を図案化しています。

佐渡は17世紀に世界最大の産出量を誇った佐渡金山が有名です。金山の開発にともなって江戸から奉行や役人、全国各地から移住してきた技術者集団、北前船などが持ち込んだ町人文化、流人の貴族文化など様々な文化も色濃く伝えられ、これらが文化が渾然一体となって佐渡の文化は創り上げられ、能や鬼太鼓をはじめとする伝統芸能が豊富です。

佐渡の総面積の40%以上は山林で占められています。島中央部の国仲平野を挟んで北側が大佐度、南側が小佐渡の山地が連なっています。寒暖両系の豊富な植物がみられ、比較的なだらかな小佐渡では棚田が展開され、地区によっては江戸時代の金山開発で膨れ上がった人口を賄う

トキ野生放鳥の取り組みには、行政、集落、大学、NPO、ボランティアが環境整備活動だけではなく、地域調査、伝統芸能体験など地域資源を共有しながら取り組みをしている例がみられます。この視点を大切に、佐渡が育んできた文化継承、棚田保全を通じて、交流事業の展開を行つていきたいと思っています。

（新潟県佐渡市 農地林政課 本間晴伸）

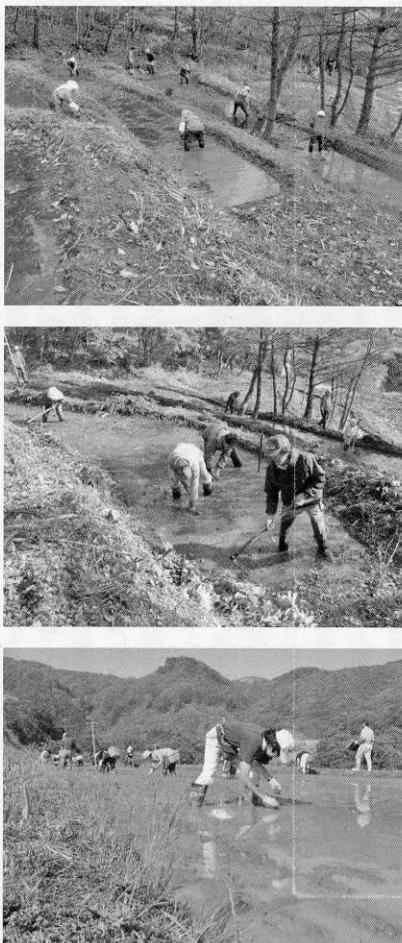
# 新潟県佐渡市

為に開発された経緯のところもあります。

佐渡は野生トキ最後の生息地でもあり、平成20年の秋に野生放鳥が計画されます。本年度には野生放鳥する訓練施設も完成し、トキの訓練も始まっています。2015年に60羽定着を目指して、トキをキーワードに食の安全・安心及び環境に配慮した米の栽培を推進しています。

J Aや関係機関、生産組織等との連携を密にし、冬季湛水など、トキと共生する水田農業への取り組みを認定し、5割以上農業や化学肥料を減らした特別栽培農産物認証制度の面的拡大と、トキをシンボルとした佐渡米のブランド化や販売促進に取り組み始めています。

トキ野生放鳥の取り組みには、行政、集落、大学、NPO、ボランティアが環境整備活動だけではなく、地域調査、伝統芸能体験など地域資源を共有しながら取り組みをしている例がみられます。この視点を大切に、佐渡が育んできた文化継承、棚田保全を通じて、交流事業の展開を行つていきたいと思っています。



## 事務局ニュース

事務局、宮崎県日南市からのお知らせコーナーです。

ようですが、結果次第では継続しないため、協議会として継続要望を訴えてきたところです。中山間地域の思いは、伝わったものと確信しています。

2月5日、東京都立産業貿易センターで第2回理事会を開催しました。第13回茂木町サミット開催報告の後、次回10月16日(18日)に長崎県雲仙市・長崎市で開催される第14回サミットの開催概要の説明があり、開催テーマに「みんなで語ろう、棚田の未来」が発表されました。

現在、第15回の新潟県十日町市までサミット開催地が決定しています。その後については、サミット開催地選定委員会の中心的役割を果たしておられる島峰広氏のご尽力により、全国各地で活発に協議が進んでいるようです。早く、要望書の提出があることを期待しています。

翌6日には、会長、副会長で農林水産省、衆議院議員会館(棚田振興議員連盟)へ表敬訪問をいたしました。中山間地域等直接支払制度の中間年評価を行い、3期対策への参考にする

さて、1年間事務局を担当させて頂きました。棚田連絡協議会を愛する一員として、協議会運営をして参りました。ホームページの更新、サミット次期開催地のPR、会員からの情報提供の発信と小さな事から取り組んできました。日本の片隅で頑張ってきたつもりですが、会員同士のネットワーク化には程遠いと感じたのも事実です。なぜ、活動してはじめて、存在感をアピールできるものであり、動いている姿があればこそ、必ず共感してくれる仲間がいるはずだと。事務局から発信することで、全国各地のみなさんが元気になれるのではないかと感じています。いかがだったでしょうか。

もうすぐ、事務局は茂木町へと引き継がれていきますが、活動の活発化と会員の獲得を第一の課題として継承していきますので、今後とも当協議会をよろしくお願い致します。

## お便りテラス

新潟県中越沖地震を  
乗り越えて  
—柏崎市の現在の状況から

多くのボランティア、自衛隊・警察・医療など様々な分野から、たくさんの方が当市へ駆けつけてくださりありがとうございました。

柏崎市は人口9万3千人余り。市の産業経済基盤は被災したことで日本中の自動車生産ラインを一時的に止めた(株)リケン柏崎事業所を中心とする機械金属製造業、三次産業(とりわけ電力関係)により支えられていますが、中越沖地震によって市民の住宅やライフライン、商店街などの生活基盤とともに、こうした企業が大変に大きな被害を受けました。

中越沖地震は、柏崎沖と言つて差し支えないほど近い所の海底が震源でした。そのため特に海に面した中心市街地や工場集団地域の多くは海岸から離れているお陰で比較的軽微な被害で済んでいますが、海岸に面している旧西山町を含む中山間地区では、棚田や山裾の崩壊とその土砂による埋没、水路や農道・ため池の損壊などが発生しました。

また農村部では、平坦・中山間を問わず住宅だけでなく農舎被害も大きく、格納しておいた農業機械が壊れ、廃棄せざるを得た所で起きました。

19年産の柏崎米の品質は、「こうした取り組みもあって県内トップクラスでした。しかし今、地震災害や米生産調整の強化、米価の大幅下落の下で、多くの農家は跡継ぎの就農見込みが立たないまま体力と心力を消耗させ、20年産米の作付け計画と當農業の継続・再建出費の選択に直面しています。

(新潟県柏崎市在住 個人賛助会員 竹内吉二)

積地、旧西山町などが直撃されました。一方、海岸から直線で10kmも内陸に入ると、地層にもよるのでしょうが、被害は比較的軽く済みました。幸い今冬も少雪で、そういう中で本格復旧工事が進められています。

平坦な水田地帯は、甚大な被害を受けた市街地や工場集積地の後ろ側にあります。そうした所では、灌漑施設や農道などが被災しました。特に、出穂を目前にして灌漑施設が大きな被害を受けたため、その用水確保が最大且つ緊急課題でした。関係者の総力で乗り切ることが出来ました。中山間地域の多くは海岸から離れているお陰で比較的軽微な被害で済んでいますが、海岸に面している旧西山町を含む中山間地区では、棚田や山裾の崩壊とその土砂による埋没、水路や農道・ため池の損壊などが発生しました。

また農村部では、平坦・中山間を問わず住宅だけでなく農舎被害も大きく、格納しておいた農業機械が壊れ、廃棄せざるを得た所で起きました。

19年産の柏崎米の品質は、「こうした取り組みもあって県内トップクラスでした。しかし今、地震災害や米生産調整の強化、米価の大幅下落の下で、多くの農家は跡継ぎの就農見込みが立たないまま体力と心力を消耗させ、20年産米の作付け計画と當農業の継続・再建出費の選択に直面しています。

なかつた農家も多くいました。秋作業が差し迫っていましたが、幸いこれも関係機関が作業受託を取り持つなどして乗り切りました。

柏崎市農林水産課が昨年12月25日現在でまとめた資料によると、国庫補助事業や市の事業で行う農地農業施設復旧工事は、市全体で117件、8億3千万円近い額になっています。現在、このうち件数で約47%が完了あるいは積雪下で工事中です。残りの箇所も、今後の降雪次第などにもようですが、春からの稻作作業までは完了する見込みです。

## 情報 候補地募集!

(株)朝日新聞社と(財)森林文化協会共催による「にほんの里100選」の候補地が現在募集中だ。〆切は2008年3月31日(月)必着で応募用紙、もしくはHPから「対象となる里」を推薦するというもの。問い合わせ先・応募用紙入手先・(財)森林文化協会「にほんの里100選」事務局 電話03・55

# 会員募集中

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織  
**全国棚田(千枚田)連絡協議会**  
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

**宮崎県日南市 農林水産課**

〒887-8585宮崎県日南市中央通1丁目1番地1  
TEL:0987-31-1132(直)  
FAX:0987-24-0080

協議会HP:<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 編集後記

特集「鳥獣害問題を考える」では、自治体担当者の方々、アンケートにご回答いただきまして、ほんとうにありがとうございました。現場からの声を都市方面にも届くようにしたいと編集を進めました。「まだまだこんな現状がある」「いやいやうちはこうだ」などなどみなさんからの生の声、隨時受け付けておりますので、お声をお寄せください。また、会員のみなさんからの自由なお便りも順次掲載していきますので、お寄せいただければ幸いです。

石井里津子

**2008年 第14回全国棚田[千枚田]サミット(長崎市・雲仙市共同開催)**

平成20年10月16日(木)～10月18日(土)開催

開催テーマ

「みんなで語ろう、棚田の未来」

みんなを  
誘って  
出かけま  
せんか？

平成20年10月16日(木)

時 間	内 容	会 場
10:00~10:50	全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会	
11:00~12:00	全国棚田(千枚田)連絡協議会総会	
13:00~13:30	開会式	アリーナかぶとがに
13:30~15:00	基調講演 ※講師 東京農工大学教授 千賀裕太郎氏	
16:30~18:00	大中尾棚田見学会	大中尾棚田 長崎市内泊

平成20年10月17日(金)

時 間	内 容	会 場
10:00～12:00	千々石の棚田(清水棚田)見学会 分科会(5分科会) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①棚田と環境～棚田で遊ぼう、棚田で学ぼう ②市民参加型の棚田保全～みんなで創ろう、棚田の未来 ③地域づくりと棚田の継承～地域の宝を次の世代へ ④棚田での生産と販売戦略～地域の“なりわい”となるもの ⑤百姓の集い～みんなで語ろう、明るい未来</div>	千々石の棚田
14:00～17:00	首長会議 中山間棚田地域の再生～夢のある中山間地域を目指して	雲仙の各会場
18:00～20:30	全体交流会	雲仙メモリアルホール 雲仙市内泊

平成29年10月18日(土)

時 間	内 容	会 場
9:30～10:40	分科会発表 共同宣言	雲仙メモリアルホール
10:50～11:20	次期開催地挨拶 閉会式	雲仙メモリアルホール
午後～	市内視察(エキスカーション)	各視察地



長崎市大中尾棚田

観保全などの多面的機能に至るまで、棚田のいろんな未来について、サミット参加者のみんなで大いに語り合おうという願いで、第14回全国棚田「千枚田」サミットの開催テーマは、「みんなで語ろう、棚田の未来」ということになりました。今年の全国棚田サミット開催地の一つ長崎市の外海地区には、「大中尾棚田」があります。戦国・江戸時代より守られてきた歴史と美しさがここにはあり、一方の雲仙市千々石地区の岳棚田「清

先人たちの知恵と技術により築かれ、今日まで守り伝えられてきた地域の宝である棚田を次の世代に引き継いでいくために、米作りに携わっている方だけでなく、地元住民やいろんな活動を通して支えとなつてている方々を含め、棚田での米作りやなりわいとしての活動方、近年盛んになつてきている本業受入活動のほか、環境・景

棚田の風景は、私たちが自然と共に共生する中で育んできた日本の原風景です。

こののどかな長崎で今年の秋は待つとるばい  
～今年のサニツーは、長崎市・靈仙市で大いに語り合い

「四季折々の美しさで安らぎを与えてくれる長崎の棚田



霧仙市 冬の岳棚田

全国の棚田地域 棚田農家の方々、棚田を愛する人など大勢が集い、人々の心が行き交うすれば、よいしつかりと取り組みますので、引き続き皆様のご支援、ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。全国棚田サミットで皆様とお目にかかるることを、心から楽しみにいたしております。

第14回全国棚田サミットは、九州では5回目、長崎県では初めての開催。長崎市・雲仙市をはじめ県民皆さんのがサミット開催をかねてから望み、全国各地から一人でも多くの方々にお越しいただきますよう切に願つております。

水棚田」は均質で整然とした頑強な石積みの美しさがあります。

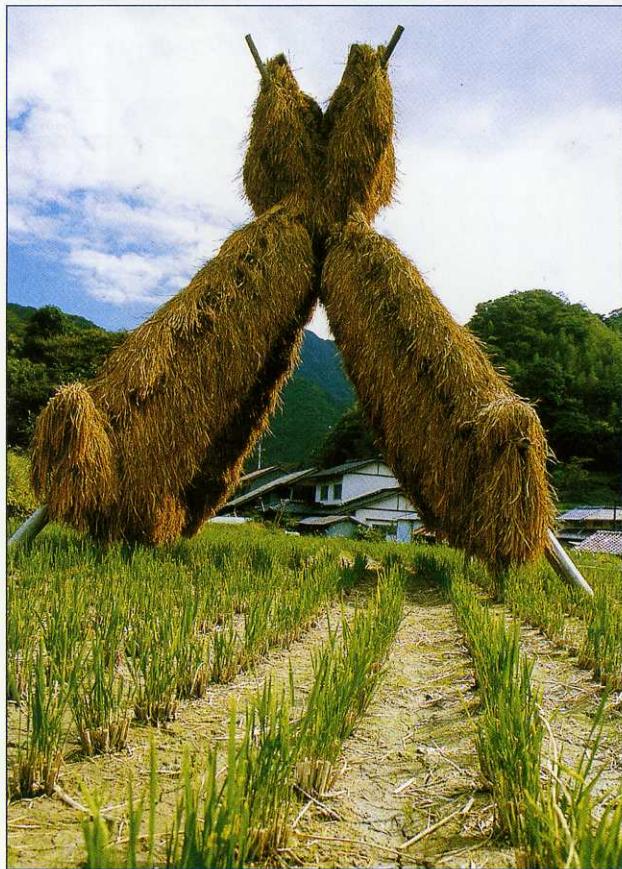
棚田ギャラリー

# わらづかいいろいろ

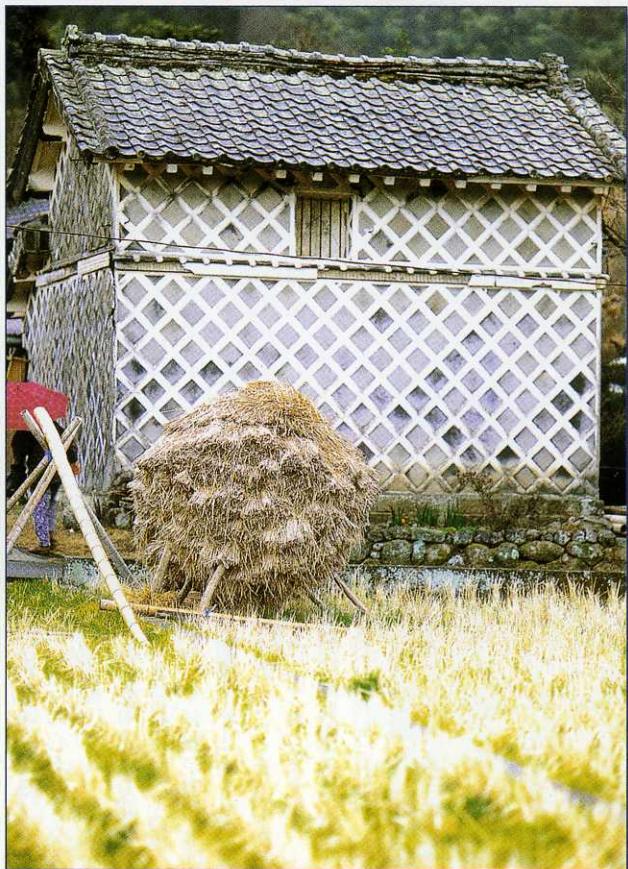
～藤田洋三「藁塚十景」ポストカードより～



ワラヅ  
愛媛県西予市宇和町



ヨズクハデ  
島根県大田市温泉津町



ボツチ  
静岡県賀茂郡松崎町

ポストカード「藁塚十景」藤田洋三 石風社発売 官製はがきサイズ10枚セット1050円(税込)

ひろしま美術館（08.2.23～4.6）、山梨県立美術館（4.19～6.1）両美術館にて特別展示「田園贅歌」が開催されます。そこで、藤田洋三氏の作品が、モネの《ジヴェルニーの積わら、夕日》、ミレーの《落ち穂拾い、夏》とともに展示されます。